

委員会報告

アジア土木学協会連合協議会(ACECC) 第30回理事会(ニューデリー)参加報告

土木学会 ACECC 担当委員会 幹事長
中野 雅章 (日本工営)

概要

2016年3月25日～27日、第30回アジア土木学協会連合協議会(ACECC)に関わる理事会等がインド・ニューデリーにて開催された。

ACECCは、アジア域内の持続可能な社会資本の整備と発展を目的として、1999年9月にアメリカ、台湾、韓国、フィリピン、日本の5カ国で発足した組織である。現在は加盟国が13カ国となり(日本、アメリカ、フィリピン、台湾、韓国、オーストラリア、ベトナム、モンゴル、インド、インドネシア、バングラデシュ、パキスタン、ネパール)、加盟各国の土木関連学協会が協力して学術・技術面の活動を促進するべく、アジア全域でその役割に對する期待が高まっている。ACECC理

事は、ACECCの組織上、最高議決機関であり、年に2回の頻度で開催されている。ACECCの主な活動内容については、学会誌2015年5月号128～129頁を参照されたい。

本会議には、土木学会 ACECC 担当委員会として、日下部治 ACECC 日本代表(国際庄入学会会長、前茨城高専校長)、山口栄輝 ACECC 担当委員会委員長(九州工業大学)、中野(日本工営)の3名が参加した。さらに、現在土木学会内に設置されている ACECC 事務局として、事務総長である堀越研一氏(大成建設)と芹野恵美子補佐(土木学会)が会議運営に携わっている。

本会議では、従来通り、初日に技術委員会(TC)の進捗報告や新規委員会の承認を目的とした技術調整委員会(TCCM)

と ACECC の活動の詳細を議論する企画委員会(PCM)が、2日目に各加盟国代表による理事会(ECM)が開催された。主な議題は、ACECC 技術委員会の活動内容の報告、今年8月に開催される7th CECAR(アジア土木技術国際会議(Civil Engineering Conference in the Asian Region)準備進捗報告、ACECC賞の投票結果の最終承認、2019年に日本がホスト国となる8th CECARの準備進捗報告等であった。

ACECC 技術委員会(TC)の活動報告

現在活動中の全10委員会の活動報告がなされ、その内容について承認された。このうち、現在日本が中心となって活動している以下の3つの委員会について、各委員会からのレポートに基づき報告した。

- ① TC12: 鉄道の更新・延伸に関する技術委員会(委員長: 奥村文直氏(鉄道総合技術研究所))
 - ② TC16: 都市交通問題を解決するためのITSに関する技術委員会(委員長: 牧野浩志氏(国土技術政策総合研究所))
 - ③ TC21: 減災・防災に関する技術委員会(委員長: 竹内邦良氏(ICHARM))
- 特にTC21減災・防災に関する技術

委員会は、前回の理事会で承認された新たなTCであり、「Transdisciplinary Approach for Building Societal Resilience to Disasters(学術・部門横断的アプローチによる災害に強い社会作り)」というタイトルの下で活動を開始したものである。その活動のKeywordは Transdisciplinary Approach(TDA)であり、科学的知見が社会の意思決定に十分に反映されるよう、異なる業種や部門を超えた体制を構築することにより、より包括的・社会変革を伴う解を可能にする取り組みと位置付けている。本TCに関しては、JSCEが強力に主導し、活動を継続できるよう、ACECC担当委員会傘下に「ACECC TC21国内支援委員会」を設置して、TDAに関連する事例の収集・分析を含むTC21活動の側面支援を行うこととしている。

7th CECAR in Hawaii 準備進捗報告

7th CECARは本年8月30日(火)～9月2日(金)にかけて、米国ハワイ州



参加者全体写真

のヒルトン・ハワイアン・ビレッジにて開催される。約30カ国から400件程度の論文投稿があり、日本からも多数の応募が受理されている。会議は自然災害、インフラマネジメント、交通、地盤工学等を含む7つの技術部門について6つの同時開催

セッションが予定されている。論文発表形式以外でも、いくつかの興味深いセッションが企画されており、日本が主導する前述のTC12およびTC21がパネルディスカッション形式でTC活動の議論を公開予定である。また磯部雅彦元学会長（高知工科大学学長）による「東日本大震災における津波経験と南海トラフ地震に対する準備」に関する基調講演も予定されている。

7th CECARの参加登録等の詳細情報は現在ウェブサイト (<http://cecar.org/>) に公開され、土木学会からも日本からの参加者に向けての案内サイト (<http://committees.jsce.or.jp/acecc/cecar/>) が公開されている。

ACECC賞の投票結果

ACECCでは、アジア域内の土木技術と発展に貢献のあったプロジェクトならびに個人に対し表彰制度を設けており、各国から推薦のあった対象者に対し、ACECC加盟国による厳正な投票を行い最終的な受賞者が決定される。土木学会では、学会誌2015年5月号やWeb案内

等で対象候補を募集し、昨年末に候補を選出したが、本理事会ではACECC賞の投票結果が報告・承認され、学会が推薦した下記の候補者の受賞が決定した。受賞者に対しては、7th CECAR開催期間中に開催される表彰式にて各賞の授与が行われる予定である。

▲ACECC Civil Engineering Project Award(s) (プロジェクト賞)

中央環状線 山手トンネルの建設(首都高速道路(株))
(The Construction of Yamate Tunnel on the Central Circular Route)

※他4件(韓国、台湾、インドネシア、ベトナム推薦)の候補者が受賞

▼ACECC Civil Engineering Achievement Award (s) (功績賞、個人)

住吉幸彦氏(一社) 日本支承協会顧問、セントラルコンサルタンツ(株) 元会長)

※他2名(台湾、韓国推薦)の候補者が受賞

8th CECAR in 東京 準備進捗報告

前々回の理事会にて招致立候補プレゼンテーションを行い、満場一致で日本開催が決まった2019年の8th CECAR

について、現時点での準備進捗を報告した。本理事会では、国内で準備委員会を組織したことと共に、次期ACECC Chairに現ACECC日本代表である日下部氏が就任されることを報告した。日下部氏のACECC創設当初からの活動や実績を知る各国メンバーからは、安堵と期待の声が広がった。

おわりに

7th CECARが終わると、いよいよ2019年8th CECARに向けた準備が本格化することになる。ACECCは単なる学会の結集組織ではなく、アジアの社会資本整備の促進を実現すべく、各国のDecision Makerや金融機関との協働関係を構築するユニークな組織であり、CECARはそのヴィジョンを発信・共有するユニークな国際会議とすべきである、という理想を実現すべく、産官学一体となった実行委員会が設置される予定である。国内外の多くの日本の技術者がACECCおよびCECARを通し、アジアにおける日本の存在感を示す機会が得られることを期待する次第である。